

国語

問題構成

本校の国語の入試問題は、文章読解力、表現力、言葉の知識、漢字の読み書きなど、国語で必要とされるさまざまな力をみることができるように作成しています。問題文は、小学校6年生に読んでもらいたいもので、読みごたえのある文章を選ぶようにしています。

国語で出題する文章は、説明的文章一編と、物語を主とする文学的文章一編を組み合わせることがほとんどです。ここ数年は漢字を問題文からではなく独立して出題することが多く、合計3題になっています。

記述問題は、20字～100字程度まで、さまざまな字数で数題出題します。長い記述問題は、文章の内容を読み取ってまとめるものもあれば、受験生自身の体験を、本文の内容に関わらせながら書くものもあります。また、選択肢問題であっても本文の内容や筆者の考えを身の周りの具体例に照らし合わせて考えさせるものもあります。さらに、文章の読解だけではなく、読み取ったことをもとに考えを深めたり、自己や社会に結びつけて発展させることができるかをみることもあります。

なお、第一回□のように、随筆を出題することもあります。随筆は説明的文章、文学的文章両方の要素があり、作品によって文学的色合いの濃いものもあれば、論理的色合いの濃いものもあります。問題は文章の特徴に応じて出されます。



文学的文章の出題の意図

文学的文章の読解の中心は登場人物の内面を理解することにあります。登場人物の内面は、その表情や態度はもちろんのこと、周りの情景描写にも反映されていることが少なくありません。また、たとえを用いて心情を語ることもあります。そこを読み取れるかどうかを問うようにしています。

たとえを用いて心情を語る例としては**第三回** 問四、登場人物の態度から心情を読み取る例としては、**第二回** 問三などが挙げられます。

文学的文章の出題の意図

二 第三回

問四

線③「薄氷を踏むような思い」とはこの場面ではどのような気持ちですか。もつとも適当なものを次の1～4から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 夜間中学にも登校するかしないかと毎日思いなやむ気持ち。
- 2 新たに通い始めた夜間中学での生活にも慎重になる気持ち。
- 3 夜間中学でもいじめられることを予想して絶望する気持ち。
- 4 今度こそは友だち作りで失敗したくないと身構える気持ち。

正解 (2)

二 第二回

問三

線②「はじめはニコニコ聞いてくれたが、一ヶ月後というスタートについては顔をしかめた」、線③「前向きな提案をしてくれた」とありますが、このときの美濃部先生の気持ちを説明したものとしてみつとも適当なものを次の1～4から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 野々香たちが自主的な活動を提案してきたので頼もしく感じ、嬉しくもあったが、企画を進めるには時間が足りず前途を思うと不安になった。しかし、何とか成功させてやりたいと思い直し、先生としてできることを果たそうとしている。
- 2 野々香たちの企画には無理があり、実施のためには面倒な手続きをたくさん踏まなければならないことを想像すると憂鬱になった。しかし、野々香たちと話をするうちに希望が見えてきたので、なんとか成功させたいと考えている。
- 3 野々香たちが中学生ならではの企画を提案してきたことを好意的に思っているが、一ヶ月で実施するのは無理だろうと感じた。しかし初めからあきらめさせるのも良くないと思い、取り組むところまではさせてみようとしている。
- 4 野々香たちの提案は図書委員会のためにはすばらしいと思っている。しかし、校長先生と副校長先生、保護者会の支持が期待できないので、生徒に対してはやむを得ず良い顔をしながらも、言葉とはうらはらに不安を感じている。

正解 (1)

二
第一回

問五 ——— 線⑤「わたしはおのずからその昔、わたしの父などが家を壊したときの様子と比較して（ひかく）それを見ている」とありますが、

昔と今の家の壊し方はどのようにちがいますか。次の文の I・II にあてはまるように、それぞれ二十五字以上三十字以内で書きなさい。

昔は	I
今は	II

正解 (※解答例省略)

問十 ——— 線⑪「サラリーマンより親方になりたいと思う者がいてもふしぎでない」とありますが、それはなぜですか。もっとも適

当なものを次の 1～4 から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 勉強嫌いの者にとっては、生活のためにいやな勉強に励（も）んで上級学校に行く必要がなくなるから。
- 2 専門分野の名人として世間から尊敬され、世間の人々と比べてみても圧倒的に（あつうてき）収入が多いから。
- 3 親方は熟練した技術を持っているので、サラリーマンのように定年や失業をする心配がないから。
- 4 中学卒業の時期から修業に努めていけば、二十歳過ぎには一人前の職人として認められるから。

正解 (2)

説明的文章の出題の意図

説明的文章の読解の中心は、筆者の考えの道筋を理解することにあります。

説明的文章では、事実を挙げ、それについての、あるいはそれを手がかりに筆者の考えが述べられます。論の運び方にしても、一般的な考えをまず述べることで、対比的形で筆者の考えを強調する場合が多くあります。説明的文章には、その他にも対比的な述べ方がしばしば登場するので、そこを読み取る問題は欠かせません。筆者の主張を理解する上で不可欠だからです。また、同じ内容を繰り返しているところ、前に言ったことを補足説明しているところ等を読み取ることが、要点の把握に必要です。合わせて文章の要点を把握するための語彙力があるかどうかも問うようにしています。

対比的な述べ方の理解を問う例としては、第一回 問五、問十が挙げられます。

漢字の出題の意図

小学校での学習の範囲から出題しますが、日常会話の中で用いるような言葉だけでなく、さまざまな文章を読みこなし、考察するための語彙を持っているかどうか、言葉の知識を問うものでもあることも本校の意図するところです。

例えば第一回の「幕引き」「肥やし」、第二回の「権勢」「盟約」、第三回の「千里眼」「右往左往」などは、小学生の会話の中にはなかなか出てきませんが、上記の意図のもとに出題しています。